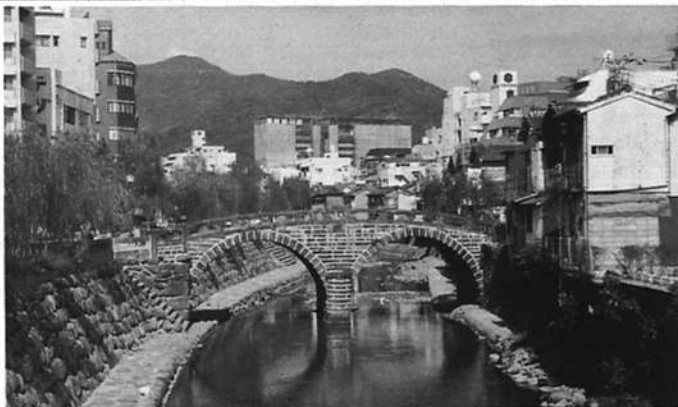


研修旅行無事終了



今年も、六月に高IIが北海道へ、九月に中3が九州に研修旅行に行った。今年は天候にも恵まれ、有意義で楽しい一週間となった。研修旅行の様子を、局員のレポートでお知らせする。



研修旅行特集号

発行

洛星新聞局

京都市北区小松原南町

☎ (463) 3281 (代)

印刷/南片桐軽印刷

中3

九州

9月3日。新幹線と「かもめ15号」を乗り継いで長崎へ。トランプやおしゃべりに夢中になる者、禁制品を取り出す者、前日まで宿題をしていたのか眠りこける者、とにかくあつという間に着いてしまった。ステンドグラスの美しい駅だ。バスに荷物を置いて26聖人記念碑へ。記念館にはキリシタン弾圧の歴史を伝える絵画や銅像が所狭しと並んでいた。

次に行った国際文化会館には原爆関係の資料があつた。写真ばかり多いのが気になる。9月4日。大浦教会でのミサと講演。被爆者の片岡さんという方に話して頂いたが、何か胸に迫ってくるものがあつた。朝が早いというところもあるのだが、残念なことには寝ている人もかなりいた。

高II

北海道

6月24日、何の変哲もない日曜日、大阪空港出発ロビーの一角をグレイの上着の1人が埋めつくした。壮観という言葉がぴったりくる。洛星高校35期生研修旅行の幕開けである。

飛行機に乗りこむ。飛行機の中では初めて乗る人も多いのか、機内設備をいじったり、やたら出歩いたり過ごし方は様々。中には動き出しからシートベルトをつけず、窓にへばりついてるツワモノもいた。不意に加減がすごくなる。確かにあった車輪の回転がなくなったと思うと、ぐんぐん機首が上に上がる。離陸。500人以上の人間が一度に飛ぶのは驚きに値するが、500人という日II生の他に200人以上の人がいる訳である。周りは人ばかり、ジャンボは旅ではなく「只今、移動中」に最適な通動バスならぬ通動飛行機であろう。なんてことを考えているうちに着陸、速さも移動に

は大切である。千歳空港を出ると、涼しい！同じ日本にこんな所があるのか？迎えに来ていたバスの中が暑そうであるのがたまたまのせいで入るのをためらわれる。バスは冷房をほとんどせずに走り出した。何もない！あるのは緑と牛と馬だけで、最初のころは興味もわいたが飽きやすくなる。飽きやすくなるために、休憩の日勝時でシャッターを切りまくったり、お土産を買ったりもあつた。その後バスは別へ。

2日目、この日から一日中バスという日が続く。曇天でうつつとしく、今にも泣きそうなく、バスは阿寒湖へ進む。湖の眺めが心配になつてきた。しかし洛星の守護神・聖ヴィアトリは強かった。マリモで有名な阿寒湖、透明度1位の阿寒湖共々景色もよく、しかも我々が去つた後に霧がかかるというオマケつきでもあり、存分にシャッターを切った満足感

と共バスに戻る事ができた。次に立ち寄った所は、まるでM3の九州を思い起こさせる硫黄山である。腐った卵のようなおおいのガスの中を、危険を省みず、眺めのいい頂上を征服したのには私も含め25人程であった。ひたすら広大な景色である。登山の次の見学地は砂湯という、屈斜路湖畔の砂を掘ると湯がわいてくる面白所だが、傾きかけた日に映えた湖の方が印象的。

今日最後の見学地は美幌峠。なぜかここでも記念撮影が終わった後で霧が出た。つづく運がいい？寒い！6月下旬には全く似合わない言葉であるが現実。バスの中に忘れられた防寒具が空しい。早々にバスへ帰る。揚げいでも寒さをしのいだ。さすがに疲れた我々を乗せ、宿泊地の網走湖荘到着は飯時の午後6時。第三日は先行別研修。私が参加していたのは知床だが、「北海道へ来たらず必ず一つ見れないものがある。神さまがまた来て下さいとそうするのだ。」というガイドさんの言葉通り、国後島が見えなかった。野付に

とにかく臭い。ラジオドラマ「君の名は」の舞台にもなったとかで、記念碑があつた。島原に向かう。武家屋敷はつまらなかつたが、島原城はすこいスケールだった。ただマクシーバーは混信ばかりして役に立たなかつた。そしてメインの一つでもある阿蘇へ。噴火活動中のため今年も中岳には登れず、火山博物館に行った。超広角マルチビジョンという花博の日立館みたいなものあつて結構楽しめた。草千里は雄大で、日本にもこんな所があつたのかと思つた。牛馬も放牧されていて、食欲をそそられた(?)。登山を中止したためにホテルには早めに着いた。露天風呂もあり、なかなか好

行つた人は、よく見えたらしいが、後はひたすら遊覧船の中で鳥にエサをばらまいていたことを覚えていた。旅館に帰ると、中にあるボーリング場の予約に行列ができていた。夜10時までのピンの倒れる音が続く。明日の長い移動、体力は大丈夫ですか？

四日目、網走湖の朝の散歩をしたグループもあつた。ハッパの名産地北見を通る。たちまちバスがハッパくさくなる。前日の疲れで半分眠っていた頭が現実で戻される。そういえば、さつきから自衛隊の車がよくすれ違ふ。ある隊員の証言。北海道でも本州出身者が多い。中には国後、択捉を知らない人もいる位です。石北峠から雄阿寒岳を見て、銀河流星の滝、層雲峡などの景色を見終わると後ではカラオケ大会など、各バスで盛り上がりつた。ここでバスガイドさんに一言。今回も札幌市交通局にお世話になった。勿論公務員であるのだが、いつもお世話になつてい

評だつた。明けて6日。「荒城の月」のモチーフとなつた竹田の岡城跡へ。小さな神社と滝。廉太郎の銅像があるだけで、すこぶる不評だつた。おまけに、にわか雨まで降ってくる。始末。皆が駆け込んでくると、バスは白桦へと向かう。白桦には様々な磨崖仏があり、たくさんのお客で賑わつてた。大分名産のかぼすを使ったようかんやアメはなかなかおいしい。また30分程走り、風連鐘乳洞に。中は金世界、銀世界、竜宮城の3ヶ所から成つていて、この世のものとは思えない不思議な美しさがあつた。

別府へ最後のバスの旅。昨日と今日はほとんどバスの中だつたわけだが、カラみることができた。しかしそれを言うと京都など一致のかたまりだと思ふ。時計台、札幌市内のみどころは大通り公園、テレビ塔、赤レンガなどであるが、どこへ行つても洛星の制服が目についた。ラーメン屋に行つて、客の半分が洛星の生徒という光景に「人間って考えること一緒やな。」午後8時に一日研修は終了。とうとう最終日になった。朝8時半に札幌を出て、野幌森林公園でガイドさん達にあいさつ。いつもよくしゃべっていたガイドさんが泣いていた。涙、涙である。園内の開拓村で、明治の世を体験後に昼食、千歳空港へ帰つてきた。バスを降りるのもこれが最後、ガイドさんや運転手さんともこれでお別れである。名残がつきず、ずっと手を握りあつていた。後は、速さが信条の飛行機の行程のみ。あっさり着陸。何の変哲もない日曜日に始まった研修旅行は、ロイヤル・ウェディングファイバーに揺れる6月29日午後5時半、フィナーレを迎えた。

北海道は良かった。(大森)

